

平成 2 4 年 度 鴨 川 市 文 化 財 保 護 審 議 会

平成 2 5 年 3 月 2 7 日 午後 2 時 0 0 分
鴨川市文化財センター 学習室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 件

(1) 報告

1. 伊八作品の樹種鑑定について
2. 清澄の大スギの保存整備事業について
3. 説明板整備事業について
4. 企画展「戦国の鴨川」について
5. 企画展「鴨川の石造物 100 選」について
6. 県指定文化財の展示について

(2) その他

4. 閉 会

鴨 川 市 文 化 財 保 護 審 議 会 委 員 名 簿

氏 名	住 所	生年月日	分 野	備 考
浅岡 力	鴨川市大幡	大 15.12.13	民俗文化財	
藤崎史正	鴨川市貝渚	昭 19. 4 .20	有形文化財	
佐藤恵重	鴨川市江見青木	昭 23. 2 . 2	有形文化財	会長
小谷善親	鴨川市内浦	昭 22.10. 7	有形文化財	副会長
杉山春信	鴨川市金束	昭 29. 4 . 2	埋蔵文化財	
菊池慎一	東京都大田区久が原	昭 11. 2. 2	記念物（海洋）	
山田利博	鴨川市天津 770	昭 34. 11. 15	記念物（植物）	

任期：平成 2 3 年 4 月 1 日～平成 2 5 年 3 月 3 1 日

鴨川市文化財の保護に関する条例（抜粋）

第4章 文化財保護審議会

（設置）

第24条 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項に関して教育委員会に建議するため、法第190条第1項の規定により鴨川市文化財保護審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（組織）

第25条 審議会は、委員10人以内で組織する。

- 2 委員は、識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 審議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。
- 4 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（任期）

第26条 委員の任期は、2年とする。

- 2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（議事）

第27条 審議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

- 2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

3. 議件

(1) 報告

1. 伊八作品の樹種鑑定について

平成24年5月22日、森林総合研究所樹種識別担当チーム長・能城修一氏が、市内の伊八（初代）の作品を中心に、その材質を特定する鑑定を実施した。

山田委員からの依頼によって、調査の実施が実現した。

山田・浅岡・杉山委員、石川、徳道が随行し立ち会った。

主に彫刻の表面や部材の切断面における、木肌・木目・導管等の状況を観察して、その樹種を特定した。（画像1参照）目視での判定が困難なものについては、所有者の承諾を得て、小片をサンプルとして採取した。

市指定文化財の伊八の作品は、昭和52・53年の指定時に樹種はクスとされていたが、今回の鑑定では、専門的な見地から材質がクスであることが再確認される結果となった。また、クスの他に、ケヤキ、イチョウが用いられていたことも確認された。（別紙資料1参照）

2. 清澄の大スギの保存整備事業

県の文化財課・平田和弘主任上席文化財主事の専門的な見地からの意見を徴しながら、清澄の大スギの保存整備事業を継続している。以前から、根系の調査の必要性が指摘されていたが、今年度は優先度の高いスギカミキリの被害の有無を確認する調査を行うこととなり、スギカミキリが3月頃に成虫となって木の表面に出てくる時点で捕獲するための粘着テープを巻きつけた。（画像2参照）

そのテープを3月下旬にはがし、スギカミキリの被害の有無を確認し、その結果をもとにして来年度の保存整備事業の内容を検討する予定。

スギカミキリの被害調査は、NPO法人「樹の生命を守る会」が担当して実施。

○ 事業費 361,200円

○ 市補助金 180,600円

3. 文化財説明板整備事業

平成24年度実施（画像3参照）

市指定有形文化財「薬王院本堂の彫刻」薬王院 平成24年5月31日設置

市指定有形文化財「石造五大明王」自性院 平成24年9月25日設置

平成25年度設置予定

市指定有形文化財「鏡忍寺祖師堂の彫刻」鏡忍寺

市指定有形文化財「吉保八幡神社の彫刻」吉保八幡神社

4. 企画展「戦国の鴨川」について

これまであまり採り上げられる機会が少なかった戦国時代の鴨川の歴史を、市民に紹介することを趣旨として開催。この地を治めた正木氏やその他の在地領主や土豪などの状況を紹介した。市所蔵となった「新蔵寺旧蔵棟札」をはじめ、新たに発見された古文書や棟札等の資料を展示し、そうした史料類の保全の重要性を周知する機会ともなった。(別紙資料2 参照)

5. 企画展「鴨川の石造物 100 選」について

身近にある「知られざる文化財」、石造物への関心と理解を多くの市民に高めていただくことを目的として開催。「天津小湊の石造物」及び鴨川市郷土史研究会が実施した調査結果をもとに、約3600件の中から100点に絞り込み「鴨川の石造物100選」とした。

当地域の石造物研究の第一人者の早川正司氏(房総石造文化財研究会・副会長、千葉県文化財保護協会・理事長)の協力を仰ぎ、再調査を実施した。その結果、幾つかの新発見、新知見がもたらされた。その研究成果を図録にまとめ刊行。

6. 県指定文化財の展示について

千葉市美術館で開催される「仏像半島 房総の美しき仏たち」に市内の県指定文化財が展示出品される。(別紙資料3 参照)

期間は4月16日～6月16日

○ 薬師如来坐像 西蓮寺

○ 不動明王坐像 両脇侍立像 大山寺

他に初代伊八作の俱利伽羅竜(大山寺)と石堂寺多宝塔脇間彫刻16面(南房総市・石堂寺)も展示される。

画像 1. 伊八作品の樹種鑑定 平成25年5月22日実施



吉保八幡神社本殿



薬王院本堂

画像 2. 清澄の大スギ保存整備事業



調査実施の看板

スギカミキリ被害状況調査の状況



画像 3. 説明板整備事業



平成24年5月31日設置 薬王院本堂前



平成24年9月25日設置 自性院入口

画像6. 県指定文化財の展示について 千葉市美術館「仏像半島 房総の美しき仏たち」



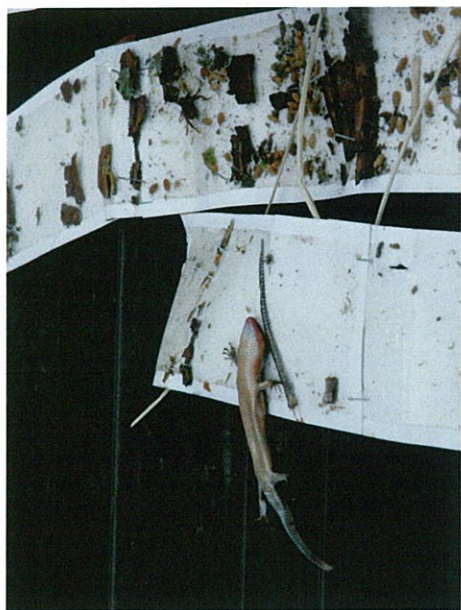
「木造薬師如来坐像」 西蓮寺



「木造不動明王坐像 両脇侍立像」 大山寺



「俱利伽羅竜」 大山寺



スギカミキリホムシを1m位で切り取る

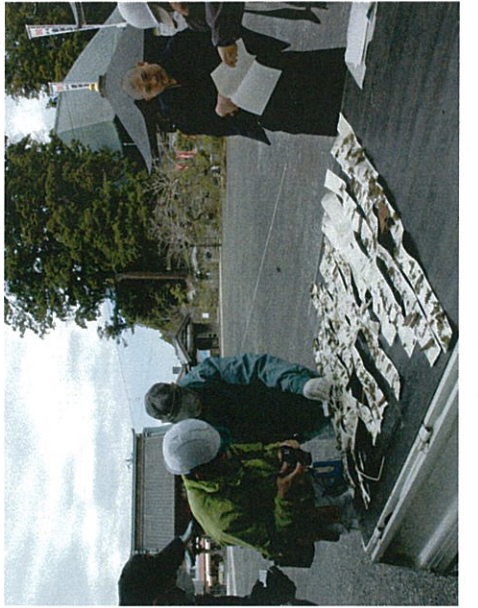
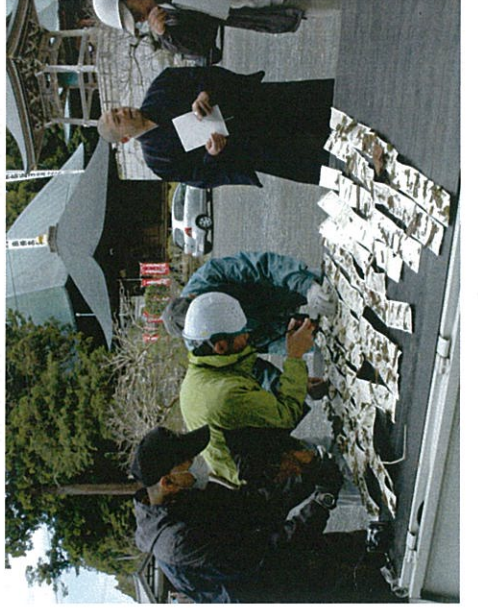


スギカミキリの成虫。3m位





大木の隣の小杉の木を伐採しています。





◎樹種鑑定結果

場所／施設	資料名	製作者	材質／樹種	備考
郷土資料館	「波に犀」一対	初代伊八	ケヤキ	個人蔵(寄託)
	「波に竜」	初代伊八	クス	個人蔵(寄託)
	「恵比寿・大黒・布袋」	初代伊八	クス	神川地区蔵(寄託)
	薬王院薬師堂の柱		ツガ	サンプル採取
吉保八幡神社	「竜」	初代伊八	クス	市指定文化財
	「波に犀」一対	初代伊八	クス	市指定文化財
	「雲に麒麟」一対	初代伊八	クス	
	「獅子」木鼻二対	初代伊八	クス	市指定文化財
	「猿」木鼻一対	初代伊八	クス	市指定文化財
	虹梁・組物		クス	
	垂木・屋根材		スギに類する針葉樹	
西福寺	「波に竜」	初代伊八	クス	市指定文化財
	「七福神」二面	初代伊八	クス	市指定文化財
	厨子彫物「波」	初代伊八(推定)	イチヨウ	サンプル採取
薬王院	「竜虎」	初代伊八	クス	市指定文化財
	「獅子・猿」一対(向拝)	不明	クス	
	「竜」(向拝)	不明	クス	
	虹梁(向拝)	不明	針葉樹	
鏡忍寺	七福神(三面)	初代伊八	クス	市指定文化財
	力士一対	初代伊八(推定)	クス	
	墓股22面	初代伊八	イチヨウ	サンプル採取

鴨川市郷土資料館 平成24年度 開館30年記念展

『戦国の鴨川～長狭郡の武士たち～』

開催期間 11月17日(土)～12月24日(月・祝) 33日間

○入館者 1, 198名(1日平均36.3名)

市 内 697名(1日平均21.1名)

市 外 501名(1日平均15.2名)

※参考 平成21年度 秋 企画展(嶺岡牧) 650名(1日平均20.3名)

平成22年度 秋 企画展(伊八) 5402名(1日平均80.6名)

平成23年度 秋 企画展(伊八) 4684名(1日平均60.1名)

○関連催事

解説講座 平成24年11月25日(日) 46名参加

※東条公民館特別講座 平成24年12月19日(水) 43名参加

○掲載新聞・情報誌等

11月 1日 広報かもがわ

11月 8日 外房新聞

11月15日 広報かもがわ

11月20日 外房新聞(資料寄贈含む)

12月 1日 広報かもがわ

12月 2日 房日新聞

12月 6日 房日新聞(解説講座結果含む)

12月12日 千葉日報掲載

12月12日 外房新聞(解説講座結果含む)

ぐるっと千葉 11月号・12月号・1月号

○アンケート結果

★アンケート総数 105 回答率 8.8%

★回答者の住所は、市内が57%を占めた。

市外は、千葉県内が大半を占め、安房管内のみではなく全域から訪れている。

★年齢は61～70歳が最も多かったが、30歳以下が3割を超え、若い人が多く来館した。

★展覧会の周知には、ポスターと道路看板が多く、全体の66%を占める。

★展覧会の内容については「よい」が70%。比較的、好評であったと判断される。

○全体の批評

- ・1ヶ月強という期間だったため、当初の入館者目標を800名としたが、それを大幅に上回り、一定の成果を上げたと考えてよい。
- ・テーマが「戦国」というメジャーな内容であったため、50代以下の若い来館者が多かった。
- ・市内来館者に重点を置いていたが、安房地域に偏らず、千葉県全域、県外からも来館者が訪れたことは評価できる。
- ・一般の人に周知するような解説やキャプションにしたため、研究者や専門家の人たちには物足りない内容だったようだ。
- ・一方で、新発見、初公開の史料を中心としていたので、その点では、研究者や専門家の評価は高かった。
- ・もともと当時の史料が残っていないことや会場のスペースという問題もあったが、来館者からは展示されている史料が少ないとの感想があった。
- ・音声もしくは係員による解説があった方がよいという意見と、静かにゆっくり見たいという意見の双方が同程度あった。
- ・周知については、ポスター、道路看板が大きな効果を上げている。新聞は目立った効果は確認できなかった。

今後への課題や問題点もあったが、資料館初の歴史部門の展覧会としては、成功を収めたと考えてよいと思う。